

**事業報告書**  
第17事業年度（令和元年度）  
自 平成31年4月 1日  
至 令和 2年3月31日

ノースジャパン素材流通協同組合

**I 組合の事業活動の概況に関する事項**

**1. 当該事業年度末日における主要な事業内容・当該事業年度における事業の経過及びその成果**

**(1) 組合及び組合員をめぐる経済・経営状況**

令和元年度のわが国の経済は、海外経済の減速等を背景に外需が弱いものの、雇用・所得環境の改善や、消費税引き上げに伴う軽減税率制度や臨時・特別の予算措置等により、内需を中心に緩やかに回復している。

令和元年の新設住宅着工戸数は、持ち家及び分譲住宅はそれぞれ前年比1.9%増及び4.9%増となったものの、貸家が前年比13.7%減少したため、全体で前年比4.0%減の90.5万戸となり、3年連続の減少となった。

一方、平成30年の木材需要については、総需要が前年比0.8%増となる中で、国内生産は燃料材の大幅増加などにより、前年比1.8%の増となり、木材自給率は36.6%と8年連続の上昇となった。

国は、引き続き森林資源の循環利用による成長産業化を基本施策とし、新たな木材需要の創出、国産材の安定供給体制の構築により、成長産業化の実現を図ることとしている。

また、相次ぐ台風等による自然災害の被災地の復旧・復興を推進するとともに、森林の整備・保全等を通じ、国土保全、地球温暖化防止等の森林の多面的機能を維持・向上することとしている。

林野庁関係予算については、国全体として国土強靱化のための臨時・特別の予算措置がされたことを背景に、平成30年度補正予算として1次及び2次補正合わせて1,228億円が計上されるとともに、令和元年度予算として3,443億円が計上され、大幅に予算額が増加となった。このうち森林整備事業については、平成30年度補正予算として182億円、令和元年度予算として1,413億円がそれぞれ計上された。

NJ素流協は、以上のような状況に適切に対応するため、川上と川下の情報の収集と発信を積極的に行い、流通対象の多様化を図りつつ、需要と供給の調整に取り組み、素材の安定供給に努めた。

その結果、共同販売による取扱数量は、バイオマスを含め52万m<sup>3</sup>の計画に対して55万8,529m<sup>3</sup>となり、計画比107.4%となった。

また、東北森林管理局の委託販売はすべてウェブ入札により、1万5,837m<sup>3</sup>を販売した。

よって、NJ素流協の令和元年度の取り扱い総数量は、57万4,366m<sup>3</sup>となった。

## (2) 共同販売等に関する事業

### ① 販売事業

#### ア. 共同販売事業の推進

素材取扱数量は、合板用針葉樹素材を主体としてスギ・カラマツ・アカマツ等合計で428,504m<sup>3</sup>、計画比110%、前年比119%である。バイオマス発電用素材については、130,025t、計画比100%、前年比108%である。

製材・集成材用等の素材も順調に販売され、前年比140%の販売量となった。

単位：m<sup>3</sup>

| 区分  | 合板用素材   | 製材・集成材用<br>素材、土木用素<br>材他 | 計       | バイオマス<br>発電用素材(t) |
|-----|---------|--------------------------|---------|-------------------|
| 材積  | 216,958 | 211,546                  | 428,504 | 130,025           |
| 計画比 | 96%     | 128%                     | 110%    | 100%              |
| 前年比 | 104%    | 140%                     | 119%    | 108%              |

(素材取扱実績の詳細については、P32の表とグラフを参照ください。)

#### イ. 出荷調整機能

出荷先が要望する樹種・規格の必要量の確保と出荷調整を実施した。

また、東北森林管理局の国有林材(素材)のシステム販売を活用し、出荷先に対する出荷量調整、月間出荷量の平準化を行った。

#### ウ. 出荷材の規格品質の維持

出荷材の規格・品質検査の実施

|     |                      |
|-----|----------------------|
| 実施日 | 令和元年10月24日(木)        |
| 場所  | (有)川井林業雫石工場 原木置場     |
| 実施数 | (有)川井林業雫石工場 納入分 スギ5台 |

また、可能な限り伐採現場へ訪問し作業員へ直接指導も行った。

受入工場より苦情のあった納材について、その実態を調査把握して処理対応をするとともに出荷者に対する指導を行った。

### ② 財務基盤の強化等

#### ア. 事業用資金の安定化

システム販売等、素材の購入・販売事業に関しては、購入から搬出・販売までに要する期間を可能な限り短くすることで回転率を高め、在庫量の抑制と運転資金の借入に頼らない財務基盤の確立に努めた。

#### イ. 事務処理等の効率化

共同販売納品書を各工場統一様式に改定。複数種類の納品書の使い分けが必要だったものが解消された。

ウ. 販売先に対する与信管理の強化

インターネットを利用した与信調査を導入。即時に与信判断に必要な情報を入手することが可能となった。また、調査コストの低減にも繋がった。

(3) 委託販売に関する事業

木質系資源の利活用の多様化に対応し、国有林材を合理的、効率的に販売するため、東北森林管理局委託販売業務を行った。

① 国有林材委託販売の開催

ア. 管理署別販売実績

単位：m<sup>3</sup>

| 受託森林管理署         | 樹種  | 受託数量  | 販売数量  |
|-----------------|-----|-------|-------|
| 岩手北部森林管理署管内     | スギ外 | 5,000 | 6,980 |
| 岩手南部森林管理署管内     | スギ外 | 5,000 | 4,455 |
| 岩手南部森林管理署遠野支署管内 | スギ外 | 3,000 | 3,074 |
| 盛岡森林管理署管内       | スギ外 | 2,000 | 1,329 |

イ. 入札実施状況

単位：m<sup>3</sup>

| 入札実施日              | 受託森林管理署       | 販売数量                   |
|--------------------|---------------|------------------------|
| 第1回 令和元年 5月29日(水)  | 岩手南部森林管理署遠野支署 | 3,074. <sup>064</sup>  |
| 第2回 令和元年 5月30日(木)  | 岩手北部森林管理署     | 2,740. <sup>033</sup>  |
| 第3回 令和元年 6月13日(木)  | 盛岡森林管理署       | 650. <sup>793</sup>    |
| 第4回 令和元年 8月6日(火)   | 岩手南部森林管理署     | 321. <sup>117</sup>    |
| 第5回 令和元年 8月7日(水)   | 岩手北部森林管理署     | 411. <sup>298</sup>    |
| 第6回 令和元年 9月10日(火)  | 岩手南部森林管理署     | 751. <sup>903</sup>    |
| 第7回 令和元年10月7日(月)   | 岩手南部森林管理署     | 2,277. <sup>380</sup>  |
| 第8回 令和元年10月10日(木)  | 盛岡森林管理署       | 435. <sup>027</sup>    |
| 第9回 令和元年10月29日(火)  | 岩手北部森林管理署     | 549. <sup>042</sup>    |
| 第10回 令和元年11月12日(火) | 盛岡森林管理署       | 243. <sup>554</sup>    |
| 第11回 令和元年11月15日(金) | 岩手北部森林管理署     | 1,170. <sup>573</sup>  |
| 第12回 令和元年11月19日(火) | 岩手南部森林管理署     | 434. <sup>617</sup>    |
| 第13回 令和元年11月28日(木) | 岩手北部森林管理署     | 2,108. <sup>575</sup>  |
| 第14回 令和元年12月9日(月)  | 岩手南部森林管理署     | 669. <sup>827</sup>    |
| 計                  |               | 15,837. <sup>803</sup> |

#### (4) 森林再生に関する事業

森林の再生に寄与するため、以下の事業を実施した。

##### ① 岩手県森林再生基金事業の推進

平成29年6月22日に設立した「岩手県森林再生機構」の中核メンバーとして、機構による再造林推進に取り組んだ。共同販売事業等に係る協力金について、原木出荷者（素材生産等の組合員）、原木購入者（販売先）から徴収するとともに、当組合（原木流通業者）の抛出分を岩手県森林再生基金に順調に積み立てることができた。（令和元年度の協力金抛出 1,345万円）。

また、基金の協力金申請要件に関する問い合わせが複数あったことから、個々の状況に合わせた申請書類の準備や記載方法等について助言するとともに、令和元年度新規に加入した組合員に対し、個別に岩手県森林再生機構および岩手県森林再生基金についての説明を行い、協力を要請した。

##### ② 低コスト再造林の促進

組合員の再造林の取組を促進するため、当組合が森林再生基金に協力金を抛出している岩手県以外の県の組合員が行う低コスト再造林に対し、組合独自に助成金を交付する「再造林促進奨励事業」を実施した。

令和元年度は、組合員6名が行った再造林面積15.30haのうち5.17ha（1組合員1.00haが上限）について助成金302,010円を交付した。

##### ③ 海岸防災林再生活動（名取市）の実施

仙台森林管理署との「社会貢献の森」協定のもと、宮城県名取市の海岸防災林において、『ノースジャパン100年復興の森』と名付けた海岸防災林の再生活動を実施した。令和元年度は月1回の巡視・清掃、8月に組合員及び役職員計22名が参加して補植、下刈り、施肥作業を行った。

#### (5) 技術指導と調査研究、情報提供に関する事業

組合員の技術向上や経営改善等を図るとともに、組合員への情報提供を進めるため、以下のとおり実施した。

##### ① 研修会等の実施

###### ア. 経営・技術研修（林業経営講座の開講ほか）

組合員及び組合員の後継者・従業員の林業経営に関する知識と林業技術を向上させるため、以下のとおり実施した。

<第1回>

|              |                                |
|--------------|--------------------------------|
| 開催日          | 令和元年6月28日（金）                   |
| 会場           | 岩手県林業技術センター（岩手県紫波郡矢巾町）         |
| 受講者数         | 19名                            |
| 研修項目<br>（講師） | 総務関係勉強会<br>①働き方改革について、人手不足への対応 |

|  |  |
|--|--|
|  | (岩手働き方改革推進支援センター 小菅久義 センター長)<br>②法人・個人の税制の違い、事業承継の税制<br>(小野寺孝一税理士事務所 小野寺孝一 税理士)<br>③法人化・事業承継に向けての準備<br>(岩手県よろず支援拠点 星野剛 チーフコーディネーター)<br>④消費税の軽減税率制度について<br>(盛岡税務署 三浦一人 審理専門官) |
|--|--|

<第2回>

|              |   |
|--------------|---|
| 開催日          | 令和元年10月30日(水)～31日(木)  |
| 会場           | ・花巻バイオチップ(株)(岩手県花巻市)<br>・(株)柴田産業 作業現場(岩手県岩手郡雫石町)  |
| 受講者数         | 17名   |
| 研修項目<br>(講師) | ①バイオマス用タンコロ及び枝条の受入れの開始について<br>(花巻バイオチップ(株) 水木宏之 代表取締役・堀米睦徳 管理課長代理)<br>②欧州製機械による次世代型作業システムの視察<br>((株)柴田産業 柴田君也 取締役・柴田智樹 取締役) |

<第3回>

|              |   |
|--------------|---|
| 開催日          | 令和2年1月23日(木)～24日(金)   |
| 会場           | 旧料亭 金勇、瀬川銘木(株)、(有)佐藤銘木、(有)渡部製材所、昭和木材(株)、(協)秋田県銘木センター(すべて秋田県能代市)   |
| 受講者数         | 16名   |
| 研修項目<br>(講師) | ①天然秋田杉銘建築について(NJ 素流協 鈴木理事長)<br>②銘木製材及び伐根製材について<br>(瀬川銘木(株) 瀬川貴志 代表取締役社長、(有)佐藤銘木 佐藤一之 代表取締役、(有)渡部製材所 渡部好則 代表取締役、昭和木材(株) 工藤勝之 製造課長)<br>③スギ高樹齢材展示即売会 |

イ. 現地視察研修

工場施設や作業システムおよび林業機械等に係る先進事例について視察研修を行うものである。令和元年度は以下のとおり実施した。

|      |   |
|------|---|
| 開催日  | 令和元年11月27日(水)～29日(金)  |
| 会場   | ・(有)杉産業作業現場(岡山県新見市)<br>・真庭市役所ほか(岡山県真庭市)<br>・院庄林業(株)(岡山県津山市) |
| 受講者数 | 14名   |

|              |  |
|--------------|--|
| 研修項目<br>(講師) | <p>①バリューバッキングシステム搭載ハーベスタの導入事例<br/>(日立建機日本(株) 野口和也 営業主任、(有)杉産業 国本峻 氏)</p> <p>②真庭市バイオマスツアー<br/>(真庭市林業・バイオマス産業課ほか)</p> <p>③国産桧を主体とした伐採から木材加工販売までの一貫経営<br/>(院庄林業(株) 竹久正 常務取締役)</p> |
|--------------|--|

ウ. 林業講演会

<第1回>

|     |   |
|-----|---|
| 開催日 | 令和元年10月9日(水)  |
| 会場  | 岩手産業文化センター アピオ(岩手県滝沢市)  |
| 名称  | 木質バイオマスのエネルギー利用の現状と将来展望   |
| 内容  | <p>講演①: 一戸発電所の取り組み及び課題について<br/>(株)フジコー 上竹智久 取締役技術部長)</p> <p>講演②: 製材工場におけるエネルギー利用<br/>(株)トーセン 東泉清壽 代表取締役)</p> <p>講演③: 木質バイオマスエネルギー利用の今後の展開<br/>(林野庁林政部木材利用課 長野麻子 課長)</p> |
| 聴講者 | 127名(組合員ほか)   |

<第2回>

|     |   |
|-----|---|
| 開催日 | 令和2年2月14日(金)  |
| 会場  | ホテルメトロポリタン盛岡NEW WING(岩手県盛岡市)  |
| 名称  | 伐採・搬出・再造林ガイドラインサミットinいわて2020<br>～伐採・再造林の一体的実施体制構築に向けて～  |
| 内容  | <p>基調講演: 循環型森林育成と安定的な木材供給<br/>(株)伊万里木材市場 林雅文 代表取締役)</p> <p>事例報告①: 「伐採・搬出・再造林ガイドライン」と<br/>普及のためのCRL認証制度について<br/>(鹿児島県素材生産事業連絡協議会 神園公博 事業部長)</p> <p>事例報告②: 皆伐・再造林推進プロジェクトと今後の課題・展望<br/>～森林資源循環活用(フル活用)～<br/>(栃木県森林組合連合会 江連比出市 代表理事長)</p> <p>事例報告③: 青森県における再造林推進の取り組み<br/>(青森県農林水産部林政課 及川正顕 課長代理)</p> <p>事例報告④: 秋田スギ流通システムと再造林<br/>(秋田県素材生産流通協同組合 松橋和夫 専務理事)</p> |

|     |  |
|-----|--|
|     | 事例報告⑤：岩手県森林再生機構の取組みについて<br>(岩手県森林組合連合会 澤口良喜 代表理事専務)<br>事例報告⑥：ノースジャパン素材流通協同組合における<br>合法木材流通と再造林推進への取組<br>(N J 素流協 駒木経営企画管理部長) |
| 聴講者 | 233名(組合員ほか)  |

#### エ. 技術向上自己研鑽研修

組合員の役職員、従業員が自己の技術や知識を向上させる目的で参加した研修会等について、経費の一部を助成するものである。令和元年度は以下の研修に対し助成した。

| No. | 組合員       | 参加研修会の名称                      | 講師または主催者            | 研修期日                          | 研修会場         |
|-----|-----------|-------------------------------|---------------------|-------------------------------|--------------|
| 1   | (有)二和木材   | 車両系建設機械<br>運転技能講習             | コマツ教習所(株)<br>宮城センター | R1. 5. 17~5. 21               | 宮城県<br>名取市   |
| 2   | (株)佐藤木材   | 車両系木材伐出機械<br>特別教育             | 林災防岩手県支部            | R1. 9. 2~9. 4、<br>9. 17~9. 19 | 岩手県<br>矢巾町   |
| 3   | 大上木材工業(株) | 車両系木材伐出機械<br>特別教育             | 林災防青森県支部            | R1. 10. 1~10. 4               | 青森県<br>平内町   |
| 4   | (有)江刺屋林業  | 車両系建設機械<br>運転技能講習             | 三陸技能講習<br>センター      | R1. 10. 7~10. 11              | 岩手県<br>陸前高田市 |
| 5   | (株)古里木材物流 | タワーヤード・木質パ<br>イオマス利活用セミ<br>ナー | 県北木材協同組合<br>ほか      | R1. 10. 25                    | 栃木県<br>那珂川町  |
| 6   | (有)名久井林業  | 大型特殊免許教習                      | (株)エステック            | R2. 3. 3                      | 青森県<br>むつ市   |

#### オ. 車両系木材伐出機械等の運転の業務に係る特別教育

平成25年の法改正により林業現場において該当する機械の運転業務に必須となった特別教育を、林災防各県支部で受講できなかった組合員を対象に実施した。

|      |                            |    |        |    |           |    |
|------|----------------------------|----|--------|----|-----------|----|
| 開催日  | 令和元年12月19日(木)~25日(水) ※土日除く |    |        |    |           |    |
| 会場   | 岩手県林業技術センター(岩手県紫波郡矢巾町)     |    |        |    |           |    |
| 講師   | イワフジ工業(株)                  |    |        |    |           |    |
| 受講者数 | 伐木等機械                      |    | 走行集材機械 |    | 簡易架線集材装置等 |    |
|      | 学科                         | 実技 | 学科     | 実技 | 学科        | 実技 |
|      | 25                         | 26 | 22     | 23 | 19        | 19 |

#### カ. その他組合員が要望する研修等

役職員及び組合員の知識と資質の向上を図るため、中央団体等が開催する研修会を受講した。

(a) 全国素材生産業協同組合連合会（全素協）主催 森林林業中央研修会

令和2年度から新たに展開される森林林業施策等についての情報知識を得るため、中央研修会に出席し林野庁幹部等からの講義を受けた。

|     |                          |
|-----|--------------------------|
| 開催日 | 令和2年1月10日（金）             |
| 会場  | ホテルメトロポリタンエドモント（東京都千代田区） |
| 参加者 | 組合員16名、事務局員5名、計21名       |

② 技術指導

組合員の経営改善と社会的貢献への寄与に資するため、次の事項を行う。

ア. 合法木材・バイオマス材等の適正供給と供給事業者認定の推進

(a) 合法木材及びバイオマス材の証明に係る事業者認定

合法木材等供給事業者認定の新規申請者を対象に研修会を実施し、組合員6事業体を認定するとともに、組合員が生産、出荷する材は全量が証明材となるように指導した。

|     | 開催日            | 会場   | 事業者数 |
|-----|----------------|------|------|
| 第1回 | 平成31年 4月 8日（月） | 盛岡市  | 1    |
| 第2回 | 平成31年 4月 9日（火） | 盛岡市  | 1    |
| 第3回 | 令和 元年 8月28日（水） | 盛岡市  | 3    |
| 第4回 | 令和 元年12月17日（火） | 十和田市 | 1    |

(b) 合法木材及びバイオマス材の証明に係る事務の再指導

担当者の変更があった組合員等に対し、書類管理及び分別管理に関する訪問指導を行った。

(c) 合法木材及びバイオマス材の取扱数量実績数量の報告・公表

取扱実績数量を取りまとめ、上部団体等へ報告するとともに、N J素流協ホームページ等で公表した。

(d) 岩手県産材証明の発行

出荷先から岩手県産材の証明要請のあった取扱材について、証明を行うとともに、前年度の証明実績を取りまとめ岩手県産材認証推進協議会へ報告した。

（平成30年度証明実績 11,670 m<sup>3</sup>）

イ. N J素流協「皆伐施業ガイドライン」の取組指導

地区別組合員会議等で組合員へ周知するとともにホームページへの掲載を行った。また、東北地域におけるガイドラインの取組を推進するため、林業講演会として伐採・搬出・再造林ガイドラインサミット(再掲)を開催した。

ウ. 「意欲と能力のある林業経営体」の活動指導

令和元年度から運用されている新たな森林経営管理制度において、市町村からの森林経営管理の再委託先となる「意欲と能力のある林業経営体」について、国の育成支援策の対象になることから、組合員に対し登録を奨励した。



エ. いわて林業アカデミー研修生の受け入れ指導

(a) 研修協力

サポートチームの一員として、組合員の協力のもと研修講師を担当した。

|     |  |
|-----|--|
| 期 間 | 令和元年10月24日(木)～25日(金)   |
| 会 場 | ・岩手県林業技術センター(岩手県紫波郡矢巾町)<br>・(株)古里木材物流 煙山土場(岩手県紫波郡矢巾町)<br>・(株)古里木材物流 事務所(岩手県盛岡市)<br>・山王海国有林(岩手県紫波郡紫波町)<br>・(株)イワリン 社有林(岩手県紫波郡紫波町)   |
| 内 容 | ・「木材の流通・販売」(N J 素流協 高橋常務理事)<br>・「採材方法と丸太の流通」(N J 素流協 鈴木理事長)<br>・「中間土場の役割・原木輸送トラックについて」<br>(株)古里木材物流 畠山正 代表取締役、N J 素流協 野田経営企画課長補佐)<br>・「山元土場の視察・低コスト再生林の取組事例」<br>(N J 素流協 吉田経営企画課長) |

(b) 就業体験研修

7組合員が就業体験研修を受け入れた。

|   |
|---|
| 就業体験の受け入れを行った組合員  |
| (株)小笠原林業、(株)昭林、(有)谷地林業、一関地方森林組合、(株)古里木材物流、(株)フォレスト創森、陸中造林(有) (組合員番号順) |

オ. 林業用種子(カラマツ)確保の取組指導

岩手県におけるカラマツ種子不足の解消に寄与するため、カラマツ球果着果状況について情報収集を行った。

カ. 国等の補助事業活用へ向けた取組指導

国の新規助成事業等を組合員へ紹介し、事業の活用を指導した。

キ. その他組合員の経営改善等に必要と思われる技術指導

G P S・G I S活用や軽油引取税の免税措置活用等の個別指導を実施した。

③ 調査研究(課題解決の取組)

素材生産、森林整備、木材流通が抱える課題の解決に向けた取組を行う。

ア. 下刈り軽労化作業の実証の取組

森林総合研究所の共同試験に参画しながら、除草剤施用による下刈作業の省力化、低コスト化の実証・検討を行っているものである。令和元年度は、除草剤の散布試験を事業的規模で実施して、その実用性を実証し、実用可能性を確認した。除草剤散布の効果を紹介するため、県内3か所(盛岡市、一関市、洋野町)で見学会を行った。

イ. 青年部会の設立と後継者による業務改革等の取組

(a) 青年部会の設立

設立発起人会による準備を進め、令和元年8月2日に「ノースジャパン素材流通協同組合青年部会」を設立した。

(令和元年度末現在会員数：正会員30名、賛助会員1名)

<設立総会>

|     |                  |
|-----|------------------|
| 開催日 | 令和元年8月2日(金)      |
| 会場  | アートホテル盛岡(岩手県盛岡市) |
| 参加者 | 正会員25名、賛助会員1名    |

(b) 新規会員の募集

若手組合員及び後継者への声掛けを行い、令和元年度は2名の入会があった。

(c) 全素協青年部会への出席

全素協青年部会主催の勉強会に出席し、最新技術や先進事例について情報収集するとともに、全国の青年部会員や林野庁幹部と意見交換した。

<第1回>

|     |  |
|-----|--|
| 開催日 | 令和元年8月30日(金)～31日(土)                              |
| 会場  | ・(国研)森林研究・整備機構 森林総合研究所(茨城県つくば市)<br>・林友ビル(東京都文京区) |
| 参加者 | 会員3名、事務局1名                                       |

<第2回>

|     |              |
|-----|--------------|
| 開催日 | 令和2年1月11日(土) |
| 会場  | 林友ビル(東京都文京区) |
| 参加者 | 会員7名、事務局1名   |

(d) 他組織等との交流活動

令和元年度は、木材を使ったスポーツ“カップ”大会へ出場した。また、県庁若手職員との交流会を開催した。

ウ. 原木トラック運送の効率化対策、素材生産者と運送業者とのネットワーク構築へ向けた取組

原木運送の効率化を図るため、林野庁長官・担当者への表敬訪問を行い、東北森林管理局、いすゞ自動車(株)あてに要望書を提出した。

また、秋田県・山形県の林業大学校を訪問し、川中(原木トラック運送)のあり方について授業内容に加えてもらうよう要請した。

## エ. スギ伐採木の含水率の推移に関する実証試験の実施

岩手県林業技術センターと共同で、2mに玉切りしたスギ丸太（林齢60年程度）を林内2か所に極積みし（合計41本）、令和元年度は6月から11月まで毎月、丸太の含水率を測定した。

## ④ 情報提供等

組合員の経営改善、技術や知識の向上、労働安全の推進などに資するため、各種情報の提供を行う。

ア. 「N J 素流協ニュース」、「立木公売情報」の発行

## イ. 地区別組合員会議における情報交換

令和元年6月中旬から下旬にかけて管内5ヵ所で開催した地区別組合員会議において、令和元年度の事業計画や新規事業等について、内容を説明し情報を共有した。

| 実施市町村 | 開催日          | 会場及び視察見学場所         | 出席者            |
|-------|--------------|--------------------|----------------|
| 七戸町   | 令和元年6月18日（火） | 七戸中央公民館            | 11組合員<br>（17名） |
| 八幡平市  | 令和元年6月19日（水） | 八幡平市立 荒屋コミュニティセンター | 12組合員<br>（15名） |
| 大崎市   | 令和元年6月21日（金） | 鳴子公民館              | 7組合員<br>（8名）   |
| 住田町   | 令和元年6月25日（火） | 住田町農林会館            | 17組合員<br>（22名） |
| 久慈市   | 令和元年6月26日（水） | 久慈市文化会館<br>アンバーホール | 7組合員<br>（7名）   |

## ウ. 国や県等が行う研修会等の情報提供

各種技能講習会や林業機械化シンポジウムなど、国、県、林災防等が開催する研修会、講演会の開催について情報提供した。

## エ. 労働安全衛生に関する情報提供

労働局からの「労働災害発生状況」、林災防から発令された「林業死亡労働災害多発警報」等を情報提供、通知した。

## （6）受託に関する事業

当組合の事業計画や組合員の事業展開に合致若しくは貢献すると思われる事項について、国や県、林業関係団体等からの助成や受託、共同による事業に取り組んだ。

### ① 災害時における応急対策業務に関する協定

大規模な災害により発生した流木や流出丸太の除去など、当組合の得意分野で県の災害応急対策業務に協力するため、平成31年3月28日に岩手県知事と「災害時における応急対策業務に関する協定」を締結した。令和元年度は県内60組合員から協力の意思表示があった。

② 「地域の木材流通の川上と川下をつなぐシステム・イノベーション」のシステムの基本構図ドラフト作成に向けた情報提供

農林水産省農林水産技術会議事務局が事務局となっている「「知」の集積と活用場の産学官連携協議会」の事業に、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所が事業実施責任者となって研究プロジェクトが展開されている（「知」の集積による産学連携推進事業のうちプロデューサー活動支援事業）。当組合は、森林総研から川上と川下のミスマッチ解消に必要な流通システムの基本構図を設計し提示する課題を受託し、当組合の取組状況を整理して報告書にまとめた。